

報 告

- ◎JICA「サンパウロ州森林・環境保全研究計画」のセミナーに当所研究員が参加
- ◎第16回治山事業推進のための研究調整会議開催
- ◎サイエンスキャンプ2003参加者感想文

◎JICA「サンパウロ州森林・環境保全研究計画」のセミナーに当所研究員が参加

JICAとブラジル国サンパウロ州森林院などが共催する「水・土・森 自然資源の保全と回復」セミナーが11月19日にサンパウロ州立大学アンス校で開催されました。このセミナーは、1993年から始まったJICA「サンパウロ州森林・環境保全研究計画」の成果報告会として企画されたものです。このプロジェクトに当初より関わっていた森林総研は、今までに現地で研究活動に従事してきた齊藤昌宏首席研究官、落合博典治山研究室長、阿部和時山地災害研究室長を派遣しました。サンパウロ州森林院の研究者を中心にサンパウロ州立大の教授など11名が浸食防止や森林回復などの研究成果を発表し、当所の各研究員はそれぞれの分野で今までに得られた森林院との共同研究の成果を発表しました。セミナーには学生・大学院生、環境問題に関心のある市民など300名を超える人々が参加し、それぞれの発表をめぐって熱心な討議がなされました。なお、JICAと当所の活動は地元の日系紙に記事として大きく取り上げられ、森林保全の重要性・森林回復の成功例がわかりやすく紹介されていました。



研究発表中の阿部室長



セミナー会場の様子

◎第16回治山事業推進のための研究調整会議開催

11月25日(火)、当所において「第16回治山事業推進のための研究調整会議」が開催されました。この会議は行政機関と研究機関が連携して社会的ニーズに対応した治山事業の推進を図ることを目的として開かれたもので、林野庁(治山課、計画課、業務課、研究普及課)及び森林総合研究所(国土保全・水資源に関する研究分野他)の合わせて44名の担当者が参加しました。その中で、それぞれの業務に関する情報交換、森林の水土保全・環境保全機能に関する研究成果の受け渡し、行政要望課題の提案などを行って有意義な会議を終了しました。



会議で挨拶する田中理事長

◎サイエンスキャンプ2003参加者感想文

平成15年8月6日(水)から8日(金)の3日間、全国から11名の高校生を3つのコースを設定して受け入れ、サイエンスキャンプを行いました。これは、1995年からスタートした高校生等を対象とした科学技術体験プログラムで、当所としては今年度が6回目の受け入れでした。主催した日本科学技術振興財団から、参加者の感想文が送られてきました。各コースの代表として3名の高校生の感想文をここに紹介いたします。

A. 「森の中の多様な植物たちを訪ねる」コース

サイエンスキャンプで得たこと

福岡県福岡女学院高等学校 宮原有加

一人きりの旅は初めてで不安がいっぱいでしたが、研究所に着いて、スタッフの方々にお願いした途端ほっとして、これから起こる出来事に期待で胸が膨らみました。

一番印象深かったのは、二日目に行った加波山での植生調査です。スギ人工林は私が九州で知っていたものより、光がよく入り、手入れも行き届いているという印象でした。コドラト別に木の高さや被度を調べたり、下層に生えている植物を調べたりしました。

午後からはブナ天然林に入りました。私には初めての経験です。ブナ林はササが沢山生えていて進むのも大変な上、アブが大量に出現し、服に引っつくので苦痛しました。しかし帰ってからデータを処理していくと、スギ林よりブナ林の方が、種子の鳥散布も重力散布も種数の割合が多いという、今まで知らなかった事が判ったりして、私にとっては最も収穫が多かった日でした。よく整備されたスギ林は下層植生の多様度が高く、反対にブナ林はササが多くて下層植生の多様度が低いというのも驚きました。

この三日間で本当に貴重な体験をする事が出来ました。研究所でお話を聞いて多くのことを学び、あやふやだったこれからの進路もはっきりしてきました。皆で調べたり意見を述べ合ったりすることが、こんなに楽しいこととは思いませんでした。

今回最後のまとめで担当した、種子の散布型の調査にはますます興味が湧いてきて、将来研究者になって、もっと追求したいと思うようになりました。そのためにはたいへんな努力が必要になると思いますが、これから頑張ろうという意欲も湧いてきました。

これも、研究所、事務局の方が熱心に指導してくださったお陰だと思います。本当にお世話になりました。有難うございました。

B. 「昆虫のフェロモンの不思議を探る」コース

サイエンスキャンプ2003

埼玉県大宮高等学校 金子碧

今回、このサイエンスキャンプで学んだことは、大きくわけて3つあります。

一番私の心に残っているのは研究者の方々の優しさです。研究者の方々に比べて明らかに無知な私で、言葉の一つ一つが難しく、その一つ一つを理解するまで嫌な顔一つせず教えていただきました。学校でも、一人の生徒にそんなにつきあってはくれないのに、こんなに親切にしてくださいと本当に感激しました。このような事は二度と経験できる事ではないと思います。この出会いと経験は今後も大切にしていきたいです。

二つ目は、研究とは根気のいる仕事であるのだなあという事です。一つずつ段階をふんでいく課程でその一つ一つが大切で正確に確実にやっていかなくてはいけないんだなあと思いました。そういう積み重ねが一年後もしくはそれ以上かけて結果が出てくるのは根気があるなあと思いました。でも、それ以上に適り甲斐がありそうだなと思いました。

最後に三つ目は、全国の友達ができただけです。同じ事に興味を持ち、貴重な時間を共に過ごした友達は10年後、20年後と続いていく一生の友達になると思います。

その他にも、今回のメインと思われる研究内容、高性能な機械を使ってみられたこと、研究所の方々と色々な話ができたことなど書ききれないほど沢山あります。

どの時をとって見ても貴重で、有意義な3日間だったと思います。それは、このサイエンスキャンプに携わった多くの方が前もって準備をしてくださったからだだと思います。たった2泊3日という短い間でしたがとても充実していました。

色々とお世話になりました。このプロジェクトに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

C. 「木の良さ使い方を知る」コース

サイエンスキャンプの思い出

神奈川県慶應義塾湘南藤沢高等部 廣野友美子

このサイエンスキャンプで私は、とても多くのものを得ました。何といっても人との出会いです。最初に集合場所に着いたとき、それらしい人が何人かいて緊張してまっくちごまっていた。2人部屋というのも、うまくうちとけられるかしらと心配の種でした。でも、一緒に行動しているうちに仲良くなって、学校の友達より気をおかずに話せる、とってもいい友達になりました。アドバイザーの小林先生もいい先生で、夜のミーティングは本当に楽しかったです。研究所の方達も優しく、難しい内容を私達にも理解できるように一生懸命話してくださいました。私のつたない意見もうらんと聞いてもらえたのでうれしかったです。

2日目のバーベキューは最高でした。研究所の理事長さんも講師の先生も気さくに話しかけてくださり、もちろん友達ともわいわいと、とてもあたたかい時間を過ごすことができました。こんなふうに歓迎されて学ぶことに感動しました。それから講義内容もとてもおもしろかったです。木の細胞を実際に顕微鏡で見たり橋の模型をつくったり。今まで「木」「材木」などと1つの言葉だったものがどどん広がっていきようでした。木の成長の様子や、日本の伝統的な工法の良さがまだ科学的に解明されていないということには驚きました。木が人に与えるリラックス効果を知るために、脳の血流を測るという実験では、実験者、被験者、両方の立場を経験できました。実験してデータをとるのは簡単そうに見えても難しいものだと思います。

あっという間に過ぎてしまった2泊3日のキャンプでしたが、実に内容の濃い充実したものでした。楽しかったとしか言えません。このキャンプの経験まるごと将来に役立てたいです。本当にお世話になりました。ありがとうございました。